



組合員参加のリサイクル回収量が増加しました。



いわて生協が参加する花巻バイオマス発電を組合員が見学。

## 第6章

# 環境活動

地球温暖化防止と原発に依存しない事業とくらしをめざし、取り組みをすすめています。

## いわて生協 環境方針

### 環境理念

2011年3月11日に発生した東日本大震災と福島第一原子力発電所の重大事故は私たちの生活全般にわたって深刻な影響をもたらしています。

電気や化石燃料が十分に供給されることを前提にした従来の考え方は根本的に変えていくことが求められています。

いわて生協は、理事会で決定した「原発をすみやかに廃止し自然エネルギーを中心としたエネルギー政策

へ」の見解と方針に基づき、国に対して原発に依存しないエネルギー政策や再生可能エネルギーの急速な導入を求めます。また、自らも、原発に依存しない事業と暮らしをめざし、CO<sub>2</sub>削減目標を持ち、再生可能エネルギーの活用・導入を積極的に推進し、従来から掲げてきた「持続可能な社会の実現」と人類共通の課題である地球温暖化防止のための活動に取り組みます。

### 環境方針

1. いわて生協は、東日本大震災によりくらしの価値観が大きく変わったことをふまえ、従来の活動の枠や発想にとらわれることなく、積極的に知恵を込めて以下の課題に取り組みます。
  - (1) いわて生協の事業における環境負荷を減らすため、マネジメントラインを通じて、全常勤者が、日常の仕事としてPDCAサイクルをまわして継続的な改善を積み重ねていきます。
  - (2) 資源を大切に活動を進め、組合員といっしょに資源節約とリサイクル活動に取り組みます。事業者責任として容器包装の100%回収をめざしリサイクルの目標を設定して取り組みます。レジ袋節約率を高め、早期にレジ袋有料化を実現できる環境づくりをすすめます。
  - (3) 常勤者・組合員それぞれが、節電と燃料の効率的な使用に取り組みます。
  - (4) 産直商品、アイコープ商品の開発と利用普及や地産地消の活動をいっそう推進し、県内農林水産業の復興・振興に寄与します。産直商品の輸

送エネルギー削減によるCO<sub>2</sub>削減効果についてわかりやすいお知らせを行います。

- (5) 太陽光発電・風力発電・木質バイオマス発電をはじめ再生可能エネルギーの導入を推進します。また、施設・設備の省エネ型への更新、エネルギー効率のよい車両の導入を進めます。
- (6) 岩手の森林を保全・育成し環境意識を高めるためコープの森づくりをすすめます。
2. 環境に関する法令を守り、事業によって環境を汚染しないよう、その予防に努めます。
3. 上記の課題に、全常勤者が主体的に取り組めるように、環境教育を実施します。
4. この環境方針と環境活動の取り組みの結果を定期的に公表し、社会的責任を果たすとともに、環境問題について社会全体の取り組みがさらに進むことへ寄与します。

制定日 2011年5月23日  
改定日 2017年3月27日  
いわて生活協同組合  
理事長 飯塚明彦

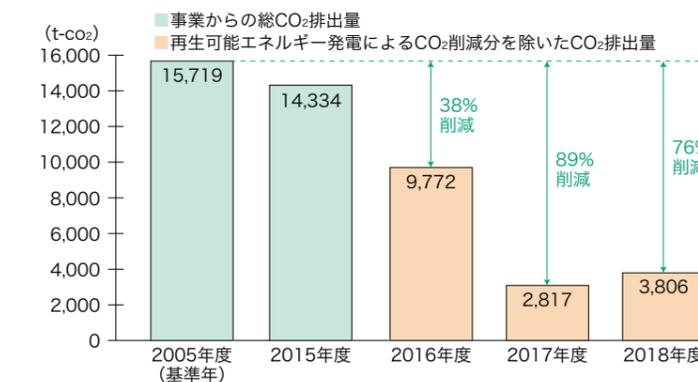
## CO<sub>2</sub>(二酸化炭素)排出量削減の取り組み

### 2018年度CO<sub>2</sub>排出量 2005年度比76%削減

2018年度いわて生協のCO<sub>2</sub>(二酸化炭素)排出量は、「2005年度比29%削減」の目標に対し「76%削減」となりました。事業所増により前年より排出量が増加しましたが、再生可能エネルギーによる創電が順調に稼働し、目標を大きく上回って排出量を削減することができました。

再生可能エネルギーによる創電は、事業所への太陽光発電設置、野田・花巻木質バイオマス発電への参加、コープ東北羽川風力発電「風みらい1号」の稼働によるものです。また、日本生協連の新電力会社「(株)地球クラブ」から再生可能エネルギー比率の高い電気を購入しています。

### いわて生協のCO<sub>2</sub>排出量



秋田羽川風力発電「風みらい1号」

### 地産地消推進で 輸送エネルギー2万トン削減

県内で生産する産直品やアイコープ商品は、生産・流通・消費がすべて岩手県内で完結するため、輸送エネルギーの削減につながります。

2018年度は店内や共同購入でこの点のお知らせを強め、輸送エネルギー削減効果は、CO<sub>2</sub> 2万 272 トン (前年比 105%) に相当しました。組合員の共感と利用につながるお知らせが課題です。

### 事業所での節電、施設設備省エネ化の取り組み

2018年度は、コープ高松の室外機を更新しました。またセリオホール緑が丘第2会館、水沢、矢中に太陽光発電パネルを設置しました(19年度稼働)。

共同購入事業では電気自動車10台(前年+3台)が稼働し、走行距離は19万9千km(前年比152%)になりました。

### 環境分野 第9次中期計画(2019・2020年度)

1. 地球温暖化防止とプラスチックごみ問題の解決に貢献するため、リサイクル活動を強化します。
  - (1) リサイクル活動のお知らせを強化し、回収量を増やします。レジ袋節約率は年平均61%をめざします。レジ袋有料義務化への対応を検討します。
  - (2) リサイクルセンターの建設準備をすすめます。
2. 環境に配慮した商品の利用を増やします。
  - (1) 産直品やアイコープ商品の利用が、輸送エネルギーの削減=CO<sub>2</sub>削減となることのお知らせを強め、利用を増やします。
  - (2) 環境に配慮した商品やプラスチック包材削減商品などの利用普及に取り組みます。
3. 「原発に依存しない事業とくらし」をめざし、CO<sub>2</sub>排出量削減と再生可能エネルギーによる創電をすすめます。
  - (1) CO<sub>2</sub>排出量は、「2030年に2013年度対比40%削減」を目標に、2020年度29%削減をめざします。創電と節電の取り組みをすすめ、事業が拡大しても、
  - (2) 2020年度に事業で使用する電力の107%相当を再生可能エネルギーで調達することをめざします。
4. 「コープの森」の活動を継続します。



いわて生協が参加する野田木質バイオマス発電



冷蔵ケースの温度点検など節電に取り組んでいます。

## 原子力発電に依存しない事業をめざす取り組み

### 事業所の電気使用量107%相当を再生可能エネルギーで確保

いわて生協は、東日本大震災による原子力発電の重大事故を受けて、「原発をすみやかに廃止し、自然エネルギーを中心としたエネルギー政策への転換」を求めています。また、「原発に依存しない事業とくらし」をめざし、節電や省エネ、再生可能エネルギーによる創電を積極的にすすめています。

2018年度の電気使用量は、2,598万kWh（前年比105.9%）。これに対し、再生可能エネルギーで2,721万kWh（前年比102%）を発電し、電気使用量の107%相当を再生可能エネルギーで確保することができました。さらに、再生可能エネルギー発電比率の高い電気を組合員に供給する「電気小売事業」をスタートしました。

また、2019年4月より、大仙バイオマス発電からの電力調達を開始しました。

### 太陽光・風力発電が前年を上回る稼働

#### コープ東北羽川風力発電「風みらい1号」

2018年度発電量 627万kWh（前年比110%）

みやぎ生協・コープあきたと共同で風力発電3基を秋田県に建設。うち1基がいわて生協の「風みらい1号」。2016年10月稼働。発電出力は2.5MW（1,500世帯相当）。

#### 野田木質バイオマス発電

2018年度発電量（いわて生協分）1,188万kWh（前年比100%）

日本生協連、コープ東北サンネット事業連合などとともに参加。2016年8月本格稼働。発電出力は14MW（2万6千世帯相当）。

#### 花巻木質バイオマス発電

2018年度発電量（いわて生協分）816万kWh（前年比100%）

2017年2月稼働。いわて生協は同年5月より参加。発電出力は6.25MW（1万3千世帯相当）。

#### 太陽光発電

2018年度発電量 89万kWh（前年比106%）

17の事業所（758kW）での発電を継続しました。また、セリオホール緑が丘、水沢、矢巾の3事業所への太陽光発電設置をすすめました。（2019年4月稼働）

#### 太陽光発電設置事業所（2018年度稼働）

事業所名	発電出力(kW)
セリオホールみたち	25
釜石センター	20
セリオホールみやこ	10
ペルフ牧野林	49
久慈センター	20
けせんセンター	20
ペルフ山岸	30
県南センター	44
セリオホール牧野林	16
ペルフ八幡平	99
コープ関コルザ	80
盛岡南センター	74
宮古センター	25
コープ花巻あうる	98
セリオホール仙北	43
花北センター	58
セリオホール岩泉	20
合計	758

## 廃棄物の削減、リサイクルの取り組み

### 組合員とすすめるリサイクル活動 回収量は3,777トンに増加

2017年度から、トレイ、紙パック、卵パックの全量回収をめざし取り組んでいます。2018年度は回収ルールの案内を強めたほか、事業で使用するトレイについて、リサイクル可能なトレイへの切り替えをすすめました。総回収量は3,777トン（前年比107%）となり、CO<sub>2</sub>削減効果は2,974トンになりました。

回収率が38%にとどまるトレイの回収を広げること、リサイクル不可割合が6割にのぼる卵パックの回収ルールを周知することが課題です。

#### 2018年度リサイクル3品回収量・回収率

品目	回収量(前年比)	回収率
トレイ(発泡スチロール・透明)	6万592kg (106.7%)	37.6%
紙パック	7万2,092kg (99.2%)	83.9%
卵パック	2万5,561kg (109.9%)	91.9%

### レジ袋節約率59%に向上

店舗では環境月間の6月を中心に、「お買い物袋持参の日」としてレジ袋節約に取り組まれました。店内放送やレジでの声かけ、マイバスケットの普及に加え、マイバッグの品揃えを見直すなど取り組みを強めた結果、レジ袋節約率は2018年度末59%（前年+5.3%）に向上しました。

#### 2018年度 レジ袋節約効果

レジ袋節約枚数	711万枚
石油節約効果(推計)	12万9,800ℓ
CO <sub>2</sub> 削減効果(推計)	34万200kg



### 古紙回収機 5店舗で698トン回収

新聞やチラシ、雑誌などを回収する古紙回収機を、5店舗に設置しています。2018年度は698トン（前年比102%）を回収しました。

#### 古紙回収機設置店舗

ペルフ仙北（盛岡市）、コープ花巻あうる、コープアテルイ（奥州市）、コープ関コルザ、マリンコープドラ（宮古市）

### 生ごみリサイクル率65%

店舗の生ごみリサイクルは382トン（前年比112%）、リサイクル率は65%でした。

※食品リサイクル率は、法律で55%以上が目標です。

#### 生ゴミリサイクル状況

店舗	用途	重量(前年比)
盛岡・滝沢店舗	発酵ガス発電、液肥原料	69トン(114%)
コープアテルイ(奥州市)	堆肥原料	33トン(106%)
コープ関コルザ	動物の餌	11トン(114%)
コープ花巻あうる	肥料原料	19トン(133%)
全店(魚アラ、惣菜油)	飼料・肥料原料	174トン(105%)

### 岩手県「エコショップいわて認定店 優良事例表彰」 いわて生協と3店舗が表彰

岩手県「エコショップ」制度で、この間のリサイクルの取り組みなどが評価され、いわて生協とコープ花巻あうる、マリンコープドラ、コープ西ヶ丘が表彰されました。

#### 2018年度エコショップいわて優良事例表彰

部門別表彰「レジ袋削減の部」マリンコープドラ（宮古市）  
部門別表彰「店頭資源回収の部」コープ西ヶ丘（宮古市）  
総合表彰 コープ花巻あうる  
特別表彰 いわて生協





毎年組合員が参加して取り組む森づくりの活動。



組合員の集まる場でリサイクルルールを紹介しました。

## 持続可能な地域社会をめざして 組合員活動の取り組み

### 2か所の「コープの森づくり」に 231人が参加

岩手の豊かな森林を残していこうと、組合員参加で「コープの森づくり」に取り組んでいます。

2010年から取り組んでいる「コープの森 in くずまき」は、植樹活動に組合員・常勤者など90人が参加し、トチノキなどの苗木300本を植樹しました。9年間での植樹本数は、委託分も含め1万7,600本となりました。

2014年から活動している「コープの森 in まえさわ生母～国の天然記念物イロハモミジの森づくり」は、5年目の活動として7月の下草刈に40人が、11月の植樹には組合員・常勤者60人が参加し、イロハモミジの苗木30本を植樹しました。

### 「コープの森づくり基金」 収入は275万円に

2012年に「コープの森づくり基金」を設立し、組合員のリサイクルで回収した紙パックの益金と共同購入チラシ益金の一部、「苗木一本募金」、お取引先協賛企画による募金を積み立てています。

2018年度の収入は275万円（前年比108%）となりました。みちのくコココーラ様の協賛で、「対象飲料1本利用につき1円がコープの森募金」になる企画を継続しました。また、組合員による苗木一本募金は、13万7千円（前年比66%）となりました。

「コープの森づくり」を支えてくださる企業を募集しています。お問い合わせは、環境事業推進室（TEL 019-687-1321（代））まで。

### 2018年度コープの森づくり基金収支報告

収入	苗木一本募金	13万7,700円
	牛乳パック、共同購入チラシ売却代金	237万5,909円
	協賛金など	23万6,735円
	計	275万344円
支出	くずまきの森費用	90万971円
	まえさわ生母の森費用	94万5,460円
	広報費用	55万8,063円
	計	240万4,494円
収支	コープの森づくり基金へ	34万5,850円

※コープの森づくり基金の2018年度残高は445万7,007円となりました。

### 「リサイクル標語」で リサイクル参加を呼びかけ

リサイクルのルールの周知やリサイクル参加を広げようと、「リサイクル標語」を募集し118作品が寄せられました。応募作品から入選10作を選び、組合員活動や店内放送などでリサイクル参加の呼びかけに活用しました。

紙パック 洗って開いて 乾かして

お母さん！ それ捨てないで 生協へ

お茶碗と いっしょに洗って リサイクル

ゴミだった 発泡トレイが 今資源

## 環境に配慮した商品利用普及の取り組み

産直品やアイコープ商品の利用普及は地産地消を推進し、県内農林水産業に復興・振興に寄与します。

### 農産チーム

#### 「顔とくらしの見える産直品」 供給高は6億7,864万円(前年比104%)

産地交流は、子育て世代対象の「ハピママコープ」でも取り組み、20企画に476人の組合員が参加。生産者との交流が深まりました。作付け量や栽培品目の増加に組み、天候も順調に推移したことから供給は前年を上回りました。

### 水産チーム

#### 三陸産アイコープ商品・産直品 供給高は1億9,588万円(前年比109%)

産直真崎わかめの利用拡大を中心に取り組みました。組合員・常勤者が学習や生産者との交流などを通して、産直真崎わかめの特長を学び、利用を広げました。またギフトでの利用も広げ、年間利用重量は28.1トンと、過去最高の実績になりました。

### 畜産チーム

#### 産直肉・アイコープ商品 供給高10億3,815万円(前年比103%)

産直アイコープ豚や産直若鶏、アイコープ商品の学習会が11企画行われ、組合員180人が参加し特長とおいしさを実感しました。また「秋のコープのつどい」などでよさと利用を広げました。

### 惣菜チーム

#### 岩手県産食材を使った惣菜商品 供給高は3億7,595万円(前年比102%)

県産原料を使った商品の開発や取り扱いに積極的に取り組みました。また、全店を対象に岩手県産原料を使った惣菜商品の供給コンテストを行い、常勤者の知恵をこめて取り組むことができました。

### 日記・グロスリーチーム

#### 産直品・アイコープ商品 供給高は16億3,018万円(前年比98%)

産直生産者との交流や学習会が活発に行われ、404人の組合員が参加しました。特に、産直米や産直牛乳産地での交流会には、多くの組合員親子が参加し、作業体験を通して生産者との交流を深めました。

### 葬祭事業セリオ

#### エコ棺のご利用は482件に

葬祭事業セリオでは、葬儀の棺に環境負荷の小さい「エコ棺」をおすすめしています。この「エコ棺」は管理された森林から採取した木材パルプを使用した、特殊三層構造の紙製の棺です。木材の使用は従来の棺の3分の2、火葬時の燃焼による排ガス汚染は3分の1に提言されます。また、売り上げの一部を東京都青梅市御岳の山「グリーンアークの森」の植樹活動に寄付しています。2018年度は施行した葬儀の37%にあたる482件で使用されました。

### 環境マネジメントシステム (EMS)

いわて生協は2000年に県内流通分野で初めて環境マネジメントシステム(EMS)の国際規格ISO14001の第3者認証を取得し環境活動に取り組んできました。2009年に3回目の更新審査で認証を得ましたが、2010年下期からは独自のEMSに移行しました。EMSの仕組みを生かしながら、省エネ設備や創電などより戦略的なテーマに取り組んでいくことがねらいです。

### 内部環境監査

2016年度から内部監査と統合して実施。2018年9月3日から25日の期間に70事業所で実施し、5件(前年比±0)の是正がありました。

### 環境情報

環境活動に関するお申し出は、レジ袋の節約やリサイクルを中心に23件寄せられました。

## 環境負荷とリサイクルフロー

### エネルギー・資材の使用

#### ■エネルギーの使用

電気……………2,598万kWh  
LPG……………247,526㎡  
灯油……………146,292ℓ  
ガソリン……………284,638ℓ  
軽油……………439,374ℓ  
車両LPG……………21,693ℓ  
ドライアイス……………549,350kg  
水……………131,800㎡  
(委託車両を含む)

#### ■資材の使用

**紙**  
コピー紙(A4版換算)…1,440万枚  
コピー紙以外の紙…3,468トン  
(共同購入・広報物など)

**容器・包装材**  
レジ袋……………51,312kg  
ポリ袋……………41,512kg  
トレイ(透明トレイ含む)…169,294kg  
ラップ……………4,236kg  
共同購入シッパー内袋…18,866kg

**車両の使用台数(432台)**  
ディーゼル車……………214台  
ガソリン車……………210台  
電気自動車……………8台  
(2019年3月現在：委託車両は含みません)

### 環境への排出

- 大気への排出  
CO<sub>2</sub> 排出量……………12,600トン
- 廃棄物  
一般廃棄物……………941,565kg  
廃家電の排出(家電リサイクル法) ……37台
- 事業活動の中で分別・再資源化しているもの

項目	2018年度	前年比
紙	85,373kg	93%
びん・缶	135,765kg	106%
発泡スチロール	54,068kg	102%
発泡スチロール(減容インゴット化)	27,782kg	89%
ダンボール	1,520,804kg	98%
廃食油	34,595kg	110%
魚アラ	152,057kg	98%
肉脂	60,653kg	125%
生ごみ	129,479kg	111%
共同購入シッパー内袋	11,425kg	137%
PPバンド	620kg	78%
<b>合計</b>	<b>2,183,610kg (2,183トン)</b>	<b>100%</b>

## 環境活動のあゆみ

1990年 いわて生協誕生	・牛乳パックの回収リサイクルを開始。 ・買い物袋節約スタンプ制開始。	2008年	・発泡スチロールの減容・リサイクル施設完成。 ・共同購入トラックで燃費改善の取り組み開始。 ・買い物袋節約率が51%となり、50%の目標達成。
1991年	・使用済みOCR用紙のリサイクルを開始。 ・食品トレイの回収開始。	2009年	・本部構内にBDF精製施設を設置。 ・透明トレイ・ふたの回収リサイクルを開始。 ・盛岡エリア店舗の生ごみ(食品残さ)を小岩井農場内でガス発電・液肥へのリサイクルを開始。
1992年	・アルミ缶の回収を青山店(現ベルフ青山)で開始。	2010年	・「コープの森づくり」が葛巻町でスタート。 ・BDF使用が本格化し共同購入トラック24台で走行。 ・県「エコショップ」制度で「特別表彰」(模範的企業活動に対して)を受賞。 ・ISO14001を終了。独自EMS運用へ。
1993年	・朝配達牛乳で、紙パックをリターナブルビン容器(720ml)へ切り替え。 ・レシート用紙を再生紙に。	2011年	・家庭の使用済み揚げ油回収スタート。 ・「低炭素杯2012」で、特別賞受賞。 ・レジ袋大幅削減に向けた提言書を、岩手県などへ提出。
1994年	・包装ラップを非塩ビラップに切り替え。 ・店舗の飲料自動販売機の台数を削減(42台から20台へ)。 ・ギフトの簡易包装紙を開発し、使用開始。	2012年	・「コープの森づくり基金」設立。 ・「古紙回収システム」ベルフ仙北でスタート。 ・県「エコショップ」制度で、コープ高松が総合表彰、いわて生協全店も特別表彰を受賞。 ・太陽光発電3事業所に設置(89kW)。
1995年	・ペットボトルの回収リサイクルを開始。 ・共同購入トラックにLPG(低NOx)を導入開始。	2013年	・秋田羽川風力発電共同事業に基本合意。 ・「食品産業もったいない大賞」で審査委員長賞受賞。 ・県「エコショップ」制度でベルフまつぞのが総合表彰。 ・電気自動車4台を盛岡南センターに導入。 ・「コープの森づくり」奥州市でスタート。 ・太陽光発電3事業所に設置(96kW)。
1996年	・共同購入盛岡3支部で商品案内チラシ回収リサイクルを開始。 ・注文のないOCR注文用紙の回収リサイクルを開始。	2014年	・「古紙回収システム」をコープアテルイ・コープ一関・コルザ・マリンコープドラに導入。 ・「できることからECOアクション賞」受賞。 ・県「エコショップ」制度で店舗事業が総合表彰、ベルフ牧野林が部門別表彰。 ・野田村の木質バイオマス発電事業へ出資・参加。 ・太陽光発電4事業所に設置(278kW)。
1997年	・共同購入全支部で商品案内チラシ回収リサイクルを実施。 ・盛岡市「ごみ減量・リサイクル協力店」に認定。	2015年	・電気自動車3台を花北センターに導入。計7台に。 ・県「エコショップ」制度で、いわて生協が総合表彰。 ・太陽光発電4事業所に設置(214kW)。
1998年	・回収したペットボトル・卵パックを卵パック原料として再利用。 ・回収した商品案内チラシを原料に、アイコープトレットペーパーを商品開発。	2016年	・日本生協連の新電力会社「(株)地球クラブ」からの電気購入スタート。 ・野田木質バイオマス発電、コープ東北羽川風力発電が稼働。 ・太陽光発電3事業所に設置(41kW)。
1999年	・アイコープ低温殺菌牛乳(200ml)をリターナブルビン容器に切り替え。 ・ペットボトル・卵パック圧縮減容の作業開始。	2017年	・花巻バイオマス発電事業へ出資・参加。 ・県「エコショップ」制度で、コープ花巻あうるが総合表彰。 ・紙パック、トレイ、卵パックの全量回収をめざす取り組みをスタート。
2000年	・県内流通業で初めてISO14001の外部認証取得。 ・LPG車両が50台を超え半数以上の導入計画達成。 ・マイバッグ、マイバスケットの本格的普及活動を開始。	2018年	・県「エコショップ」制度で、いわて生協と3店舗が表彰。
2001年	・印刷物に大豆インキを採用。 ・遺伝子組換え原料・飼料の排除の取り組み本格化。		
2002年	・買い物袋節約スタンプからカードポイント制に変更。 ・共同購入の内袋を回収し、内部使用のゴミ袋にリサイクル開始。		
2003年	・買い物袋節約率が30%を超える。 ・コープアテルイで生ごみ堆肥化リサイクルを開始。		
2004年	・印刷物・帳票類の再生紙への切り替えが終了。		
2005年	・岩手県「エコショップ」制度第1号認定を受ける(全店)。 ・「森林(もり)を守る募金」開始。以後、この募金を活用し4年間で県内環境団体へ150万円贈呈。		
2006年	・セリオホールみたけに初の太陽光発電を導入。 ・共同購入トラックでBDF使用開始(6台)。		
2007年	・買い物袋節約率45%に。50%をめざす新目標を決定。 ・葬祭事業で環境負荷が少ない棺「エコ棺」を導入。		

### 組合員のリサイクル活動(店舗・共同購入)

上段：回収量(前年比) 下段：枚数換算値

トレイ(発泡)	38.8トン(102%) 775万枚	▶ トレイに再生
トレイ(透明)	21.8トン(113%)	▶ プラスチック製品に再生
ペットボトル	140.6トン(118%) 233万本	▶ 卵パック・プラスチック製品に再生
卵パック	25.6トン(110%) 150万枚	▶ 卵パック原料に再生
紙パック	72.1トン(99%) 216万枚	▶ アイコープわたしたちのリサイクルトレットロールを含む紙製品に再生
共同購入チラシ	3,221トン(103%)	▶ アイコープわたしたちのリサイクルトレットロールを含む紙製品に再生
古紙	698トン(102%)	▶ 紙製品に再生
アルミ缶スチール缶	86.6トン(122%)	▶ アルミ・鉄製品に再生
廃食油	25.6トン(99%)	▶ 飼料原料として再利用
ダンボール	34.5トン(276%)	▶ ダンボールに再生

※業者に払い渡して再資源化した数量です。

### いわて生協のリサイクルの流れ





いわて生協の復興支援活動マーク。「岩手山」と「握りこぶし」を表現し、「岩手のみんなが笑顔で安心して暮らせる未来を築くために、みんなががんばろう!」の意味をこめています。

## 社会活動・環境活動報告書 2018年度の取り組み

いわて生活協同組合  
TEL.019-687-1321(代)